

コンビチャイルドシート プリオリXP

取扱説明書

品質保証書付



ECE R 44/03
03301153



お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。

このチャイルドシートは、ヨーロッパ基準 ECE R44/03 を取得しています。

裏表紙の品質保証書の欄に、必要事項をご記入ください。

本書は、本体後ろ側の収納部に保管してください。(9ページ参照)

お使いいただく前に	1
取り付けできない座席	1
お使いいただけるお子さまの条件	2
安全にお使いいただくために	3
シートベルトの種類と使用上の注意点	3
△危険	4
△警告	5
△注意	6
△日常の点検	7
△緊急時の脱出	7
各部のなまえ	8

車に取り付ける前に	10
リクライニングの使いかた	11
お子さまの座らせかた	12
幼児ベルトの高さ調節	14
幼児ベルトの長さ調節	16

車の座席への取り付けかた	17
座席への取り付けかた	18
取り付け時の完了チェック	21

こんなときには	22
---------------	----

お手入れのしかた	23
----------------	----

製品仕様	26
------------	----

品質保証書	裏表紙
-------------	-----

△危険 本製品は前向き専用です。

お使いいただく前に

このたびは、コンビチャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

お使いいただく前に

チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。

取り付けできない座席

⚠危険 次の条件のいずれか1つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

シートベルトの付いていない座席。



シートベルトが座席の中間から出ている座席。

...チャイルドシートのシートベルト通し穴の位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。



2点式シートベルトの座席。



パッシブシートベルトの付いた座席。

パッシブシートベルトとは...車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車にみられます。(オートマチックシートベルト)



エアバッグ装備の座席。

...サイドエアバッグのみの場合には使用できます。



お使いいただけるお子さまの条件

次の条件をすべて満たすお子さまにお使いいただけます。

体重条件：9kg以上～18kg以下のお子さま。（参考年齢…1才頃～4才頃）

身長条件：チャイルドシートに座らせ、後頭部が背もたれから上に出ないお子さま。

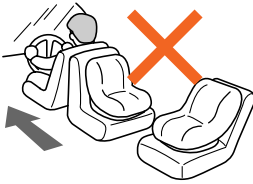
⚠
危険

「身長の目安」や「参考年齢」は、あくまでも目安です。

身長や年齢が上記を満たしていても、「体重条件」を満たしていないお子さまは、使用しないでください。

お使いいただく前に

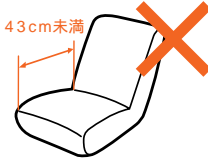
進行方向に対して
横向き、または後
向きの座席。



座席の中央が極端に盛り
上がっていて、取り
付けたときに不安定に
なる座席。



座席の奥行きが
43cm未満の場合。



極端なバケットシート。
…座面の中央が深くへこ
んでいる座席。



シートベルトの取り
付け幅が40cm未
満の場合。

シートベルトが座席の
端にあっているところ
から、バックルの付け
根までの長さ。



⚠
危険

上記以外の座席でも、チャイルドシート
をしっかり固定できない場合には、使用
しないでください。

チャイルドシートは前座席・後座席と
もに取り付けられますが、より安全な
後座席への取り付けをおすすめいたし
ます。

安全にお使いいただくために

シートベルトの種類と使用上の注意点

本製品は、シートベルトの種類により使いかたが異なったり、使用できない場合があります。



必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。
2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。

お使いいただく前に

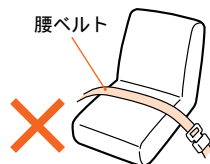
3点式シートベルトとは

図のように、腰ベルトの左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。



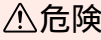
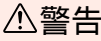
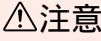
2点式シートベルトとは

図のように、腰ベルトの左右2点で体を支えるシートベルトのこと。(2点式シートベルトには取り付けられません)



車のシートベルトの種類 (シートベルトの方式)	特徴 (見分け方)	取り付け上の注意点	取り付けの可否
ELR 緊急ロック式巻取装置付き	ゆっくりと引くとベルトが自由に伸び縮みし、勢いよく引くとロックする。	ゆっくりとシートベルトを引き出して取り付けてください。	○
ALR/ELR チャイルドシート固定機能付き	ベルトをすべて引き出した後で巻き戻すと自動的に締まり、それ以上伸びなくなる。(ベルトを全て巻き戻すと解除される)	本製品のロック機構により固定した上で、シートベルトをすべて引き出した後、ベルトを戻し、チャイルドシート固定機能を効かせてください。	○
NR マニュアル式	巻き取り装置の付いていないシートベルト。		
NLR 非ロック式巻取装置付き	ロック機能のない巻取装置付きシートベルト。	チャイルドシートにあわせてシートベルトの長さを調節し、本製品のロック機構により固定してください。	○
ALR 自動ロック式巻取装置付き	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出せなくなる。		

「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

お使いいただく前に

危険

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります

使用条件に**適合しないお子さま・座席**などでは、使用しないでください。



お子さまがチャイルドシートの上に**立ったり、中腰になったり、正座をしない**ように注意してください。

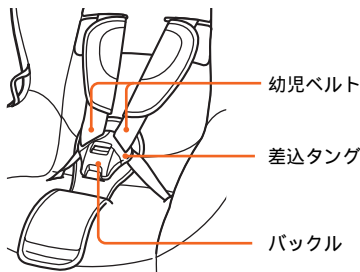


車に取り付けるときは、必ず**車のシートベルトで固定**してください。ひもなど、シートベルト以外の**もので固定しない**でください。



幼児ベルトが正しく装着され、左右の**差込タンク**が**しっかりバックルに差し込まれている**ことを確認してください。

エアバッグが装着された座席では、**使用しないでください**。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。...**サイドエアバッグのみ**の場合には使用できます。



シートベルトや座席の条件などにより、**取扱説明書どおり**に**しっかり固定**できないときは、他の座席に取り付けてください。



前向きで使用**(後ろ向きでは、絶対に使用しないでください)**

安全にお使いいただくために

⚠ 警告

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります

お使いいただく前に

幼児ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。

幼児ベルトは乗車ごとに正しい長さに調節してください。(16ページ参照)

衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても、絶対に使用しないでください。

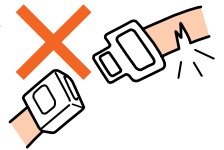
幼児ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、当社のコンシューマーブラザにお問い合わせください。



お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき、差込タンクがバックルからはずれていないことを確認してください。



車のシートベルトに傷がある場合は、その座席では使用しないでください。



お子さまを車内に1人で放置しないでください。日ざしの強い日などには、車内の温度が高くなり、お子さまが脱水症状になるおそれがあります。また予期せぬ事故の元となります。必ず保護者の方が同乗してください。



次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねくおそれがあります

お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。



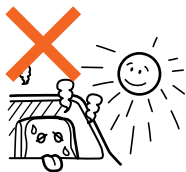
シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けしないでください。

2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けしないでください。緊急時の脱出の妨げになります。



⚠ 注意

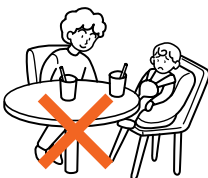
直射日光が当たると、差込タンクなどが熱くなり、**やけどをするおそれ**があります。各部にさわり、やけどをしないことを確認してから使用してください。



走行中は、チャイルドシートの操作や**調節をしない**でください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートを操作しないようにしてください。



チャイルドシートを通常の椅子として使用すると、転倒してけがの原因となります。本来の目的以外には使用しないでください。



チャイルドシートを**改造**しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。



車の座席にクッションや座布団などを敷いたまま、チャイルドシートを**取り付け**ないでください。しっかり固定されません。



固定されていない物を車内に置かないでください。(急ブレーキや衝突時にお子さまなどに当たる可能性があります)



風雨にさらさないでください。



シートクッションなどの縫製品や、ウレタンなどのクッション材を**はずしたまま**使用しないでください。また、本製品以外の物と取り換えたりしないでください。(衝突時の安全性能に影響を与えるおそれがあります)



チャイルドシートを車のシート可動部やドアなどには**さま**ないように十分注意してください。



お使いいただく前に

⚠ 日常の点検

チャイルドシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。

お使いいただく前に

幼児ベルトが肩ベルト通し穴の正しい位置にセットされていること

お子さまを乗せても、車のシートベルトにねじれやたるみがないこと

幼児ベルトにねじれやたるみがなく、お子さまの体にフィットしていること

幼児ベルト(肩ベルト)が
お子さまの体にフィットしていること(調節ベルトを引いてフィットさせてください)



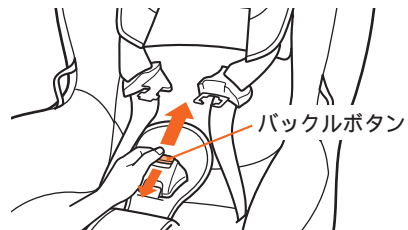
チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されていること(本体を前後にゆすり、確認してください)

差込タンクがしっかりとバックルに差し込まれていること

車のシートベルトの差込金具がしっかりとバックルに差し込まれていること

⚠ 緊急時の脱出

事故など緊急時は、保護者の方がバックルボタン(赤色)を押し、幼児ベルトをはずして、すみやかにお子さまを車外に脱出させてください。

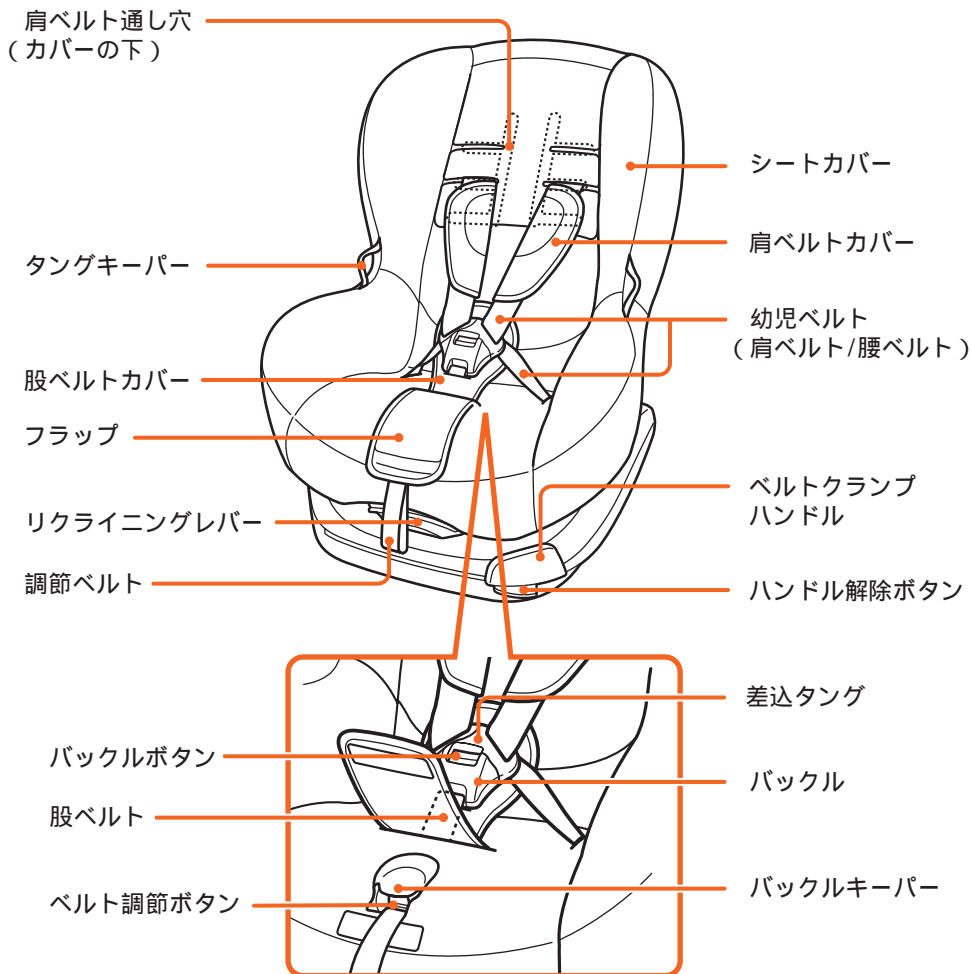


各部のなまえ

次ページに続く

ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

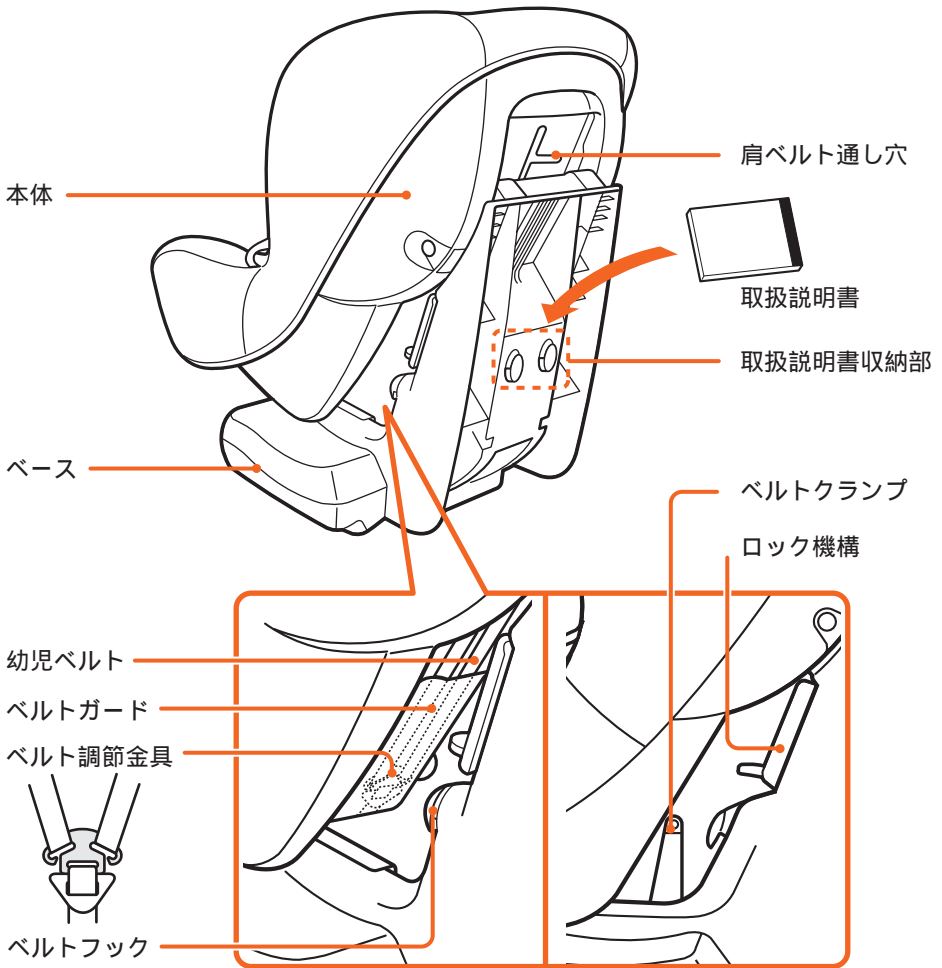
正面



各部のなまえ

背面・側面

お使いいただく前に



車に取り付ける前に

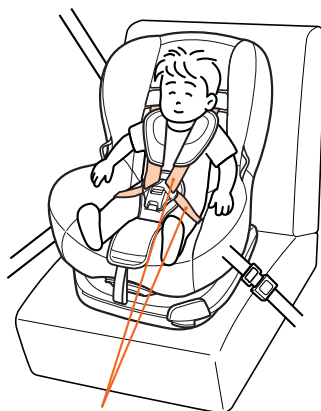
ここでは、取り付けの向きと正しい座らせかたを説明しています。
またお子さまの体に合わせてチャイルドシートの幼児ベルトの長さ、
肩ベルト通し穴の位置などを調節してください。

チャイルドシートを固定する前に、お子さまを座らせ、P10～P17までの内容を確認してください。

体重 9kg以上～18kg以下 まで(1才頃～4才頃まで)

前向きで使用(後向きでは、絶対に使用しないでください)

リクライニング4段階使用可(取り付け後、リクライニング操作をして少しでもぐらつく場合は、「座席への取り付けかた」手順6(20ページ)を参照してシートベルトを締め直してください)

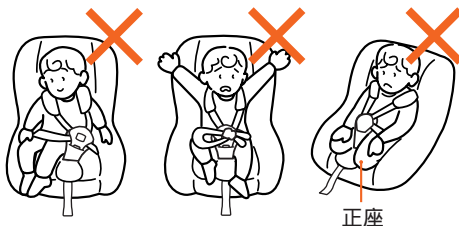


幼児ベルト
(肩ベルト/腰ベルト)

この取扱説明書では、チャイルドシートの幼児ベルトをお子さまが接している部分により、肩ベルトと腰ベルトとに分けて説明しています。

お子さまを座らせるときには、右図のような乗せかたをしないでください。チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

極端な厚着のまま乗せないでください。



警告

車に取り付ける前に

リクライニングの使いかた

お子さまが眠ったときなどのために、チャイルドシートを寝かせることができます。



リクライニング操作は、必ず車を停車させてから行ってください。

車に取り付けた後、リクライニング操作してチャイルドシートが少しでもぐらつく場合は、「座席への取り付けかた」手順6(20ページ)を参照して、シートベルトを締め直してください。

1 チャイルドシートの座席の下にあるリクライニングレバーを握り、リクライニング角度を調節します。(4段階)

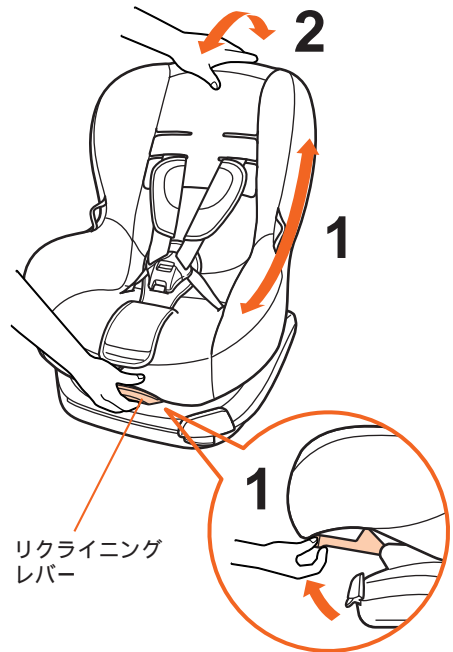
2 レバーから手を離して本体を前後にゆすり、しっかりロックされた状態であることを確認してください。

ポイント



取り付け後、リクライニングしづらい場合は、車の背もたれを1~2段リクライニングさせてから操作してください。リクライニング後、車の背もたれをチャイルドシートに接するように再度起こしてください。

車の座席がリクライニングできない場合や座席の形状によっては、チャイルドシートのリクライニングが使用できないことがあります。



リクライニングレバー



車の座席形状によって、チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作ができない場合があります。その状態のまま、無理にリクライニングさせないでください。故障の原因になります。



手をはさまないように、ご注意ください。同乗者の手元にも、充分ご注意ください。リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。

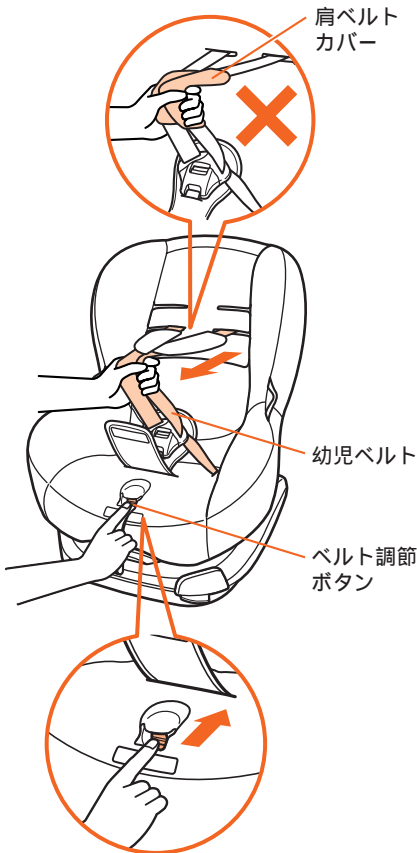
お子さまの座らせかた

次ページに続く

取り付け前に、お子さまを座らせ、使用する肩ベルト通し穴の位置をお子さまの体に合わせてください。

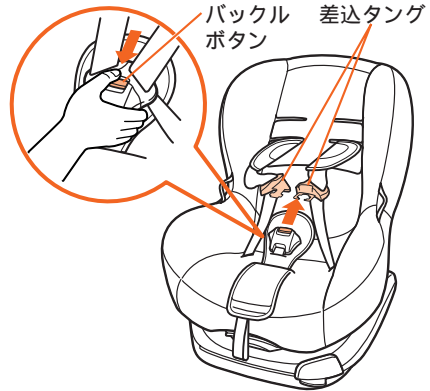
- 1** ベルト調節ボタンを押しながら、左右の幼児ベルト(肩ベルト)を手前に引き、ゆるめます。(16ページ参照)

ワポイント 肩ベルトカバーを引っぱらないでください。肩ベルトカバーを引き出すことはできません。

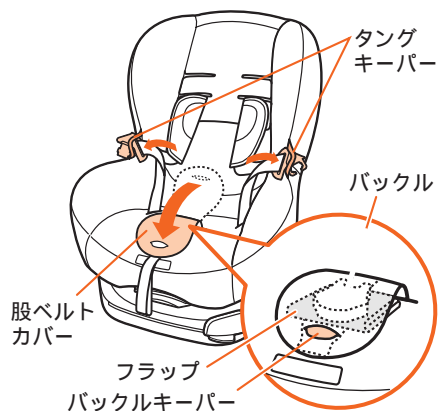


ワポイント 左右どちらかを強く引くと、ベルトの長さが変わりますので、左右のベルトを一緒に引いてください。

- 2** バックルボタンを押して差込タンクを抜きます。



- 3** 差込タンクをシートクッション両側のタンクキーパーにはさみます。股ベルトカバーをベルト調節ボタンの上にあるバックルキーパーにかけ、バックルにかぶせます。(このとき、シート座面のフラップは図のように丸めてください)



車に取り付ける前に

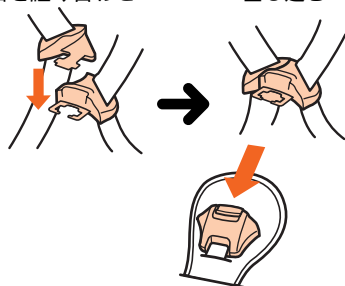
4 お子さまを座らせ、左右の腕を幼児ベルト(肩ベルト)に通します。



5 左右の差込タングを組み合わせてから『カチッ』と音がするまで、差込タングをバックルに差し込みます。

左右を組み合わせ

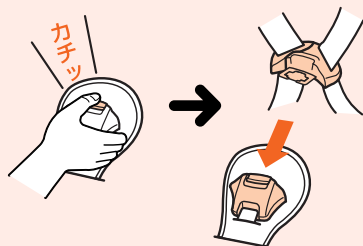
差し込む



ワンポイント お子さまを座らせていないときも、差込タングをバックルに差し込んでおいてください。

差込タングが差し込めない場合

バックルボタンを「カチッ」と音がするまで押しつけ、再度左右の差込タングを合わせて正しく差し込んでください。



6 調節ベルトを手前に引き、左右の幼児ベルトがお子さまの体にフィットするように調節します。(16ページ参照)



幼児ベルト(腰ベルト)がお子さまの骨盤をしっかりと拘束するように、必ずベルトを低くしてください。

ワンポイント お子さまが窮屈でないように、また幼児ベルトがたるんだり、ゆるまないように調節してください。



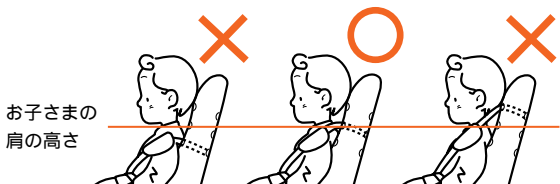
左右の差込タングが、完全にバックルに差し込まれていないと、衝突時に子供が飛び出したり、ベルトが首に巻き付き、窒息するなどのおそれがあります。

幼児ベルトの高さ調節

お子さまを座らせたとき、お子さまの肩の高さよりも、幼児ベルトが下にある場合は、お子さまの肩のすぐ上になるように幼児ベルト上端の肩ベルト通し穴の位置を変えてください。(工場出荷時は一番下になっています)

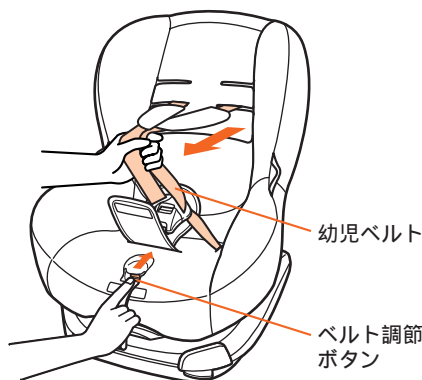
肩ベルト通し穴の高さの目安

幼児ベルトは、着座したお子さまのすぐ上の肩ベルト通し穴に通してください。

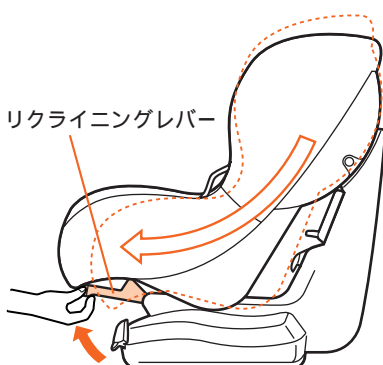


肩ベルト通し穴の位置がお子さまの体に合っていないと、衝撃が加わったときに幼児ベルトが肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。肩ベルト通し穴は、左右同じ高さの穴を使用してください。

- 1 ベルト調節ボタンを押しながら、左右の幼児ベルトを手前に引き、ゆるめます。



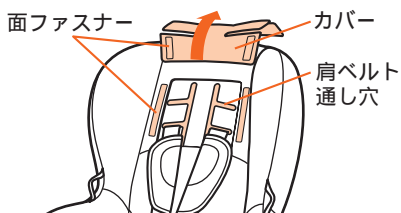
- 2 リクライニングレバーを握り、リクライニング角度を最も倒した位置にします。



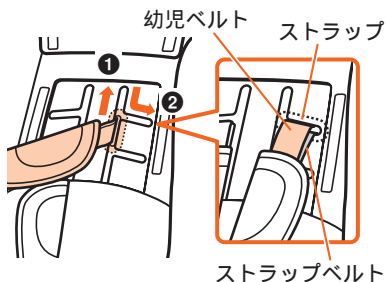
車に取り付ける前に

幼児ベルトの高さ調節

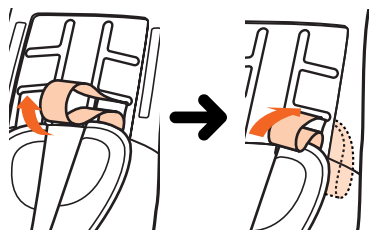
- 3** チャイルドシート上部のカバーを、面ファスナーをはずし持ち上げて、肩ベルト通し穴を見えるようにします。



このとき、幼児ベルトが、肩ベルトカバーのストラップベルトの上になっていないことを確認してください。

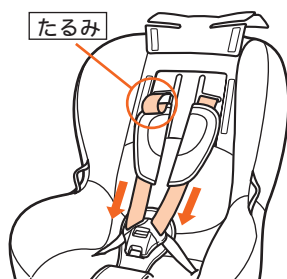


- 4** 図のように、幼児ベルトを下から少し引き、上側に戻します。



ポイント 幼児ベルトを引きすぎると、ベルトがスライドしにくいことがあります。その場合は、手順4のようにベルトを更に戻してからもう1度行ってください。

- 6** 肩ベルト位置を変え終わったら、肩ベルトカバーの下のベルトを引いて、たるみを取ります。



- 5** 幼児ベルトと肩ベルトカバー先端のストラップを、肩ベルト通し穴の縦穴に沿ってスライドさせ、通し穴の位置を変えます。

- 7** チャイルドシート上部のカバーを肩ベルト通し穴の上にかぶせ、幼児ベルトを適切な位置にそろえてから面ファスナーで固定します。

幼児ベルトの長さ調節

お子さまを座らせて、幼児ベルトがフィットするように長さを調節します。左右どちらかのベルトを強く引くと、左右のベルトの長さが変わりますので、左右の幼児ベルトの長さが同じになるように調節してください。



必ずベルトの長さを調節してください。お子さまの体にフィットしていないと、衝突時にお子さまが飛び出したりするおそれがあります。幼児ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息するおそれがあります。

ワンポイント



お子さまと幼児ベルトの間に、**大人の手のひらが入るくらいが適切です。**きつかったり、ゆるかったりするときには、幼児ベルトの長さを調節してください。



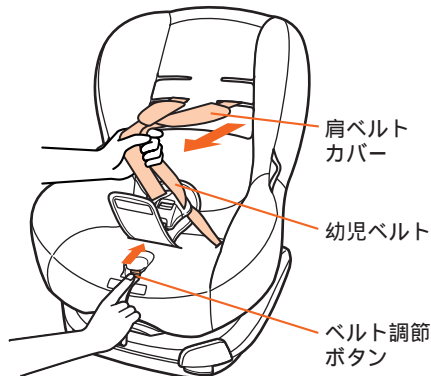
幼児ベルトを短くするには
(お子さまを乗せ終わったら)

調節ベルトの上側を持ってベルトを引きま
す。



幼児ベルトを長くするには
(お子さまをおろすときは)

フラップの下にベルト調節ボタンを押しな
がら、肩ベルトカバーより下の幼児ベルト
を手前に引きます。



肩ベルトカバーを引っばらないでくだ
さい。

車に取り付ける前に

車の座席への取り付けかた

ここでは、座席へ取り付けるときのご注意と、取り付けかたを説明しています。

車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは1～2ページを参照してください。

⚠
危険

必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。
チャイルドシートがしっかり固定できない場合は、本来の機能を果たさず大変危険ですので、他の座席に取り付けてください。
車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。
エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

⚠
警告

車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けしないでください。
お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで固定してください。
シフトノブやサイドブレーキ操作などの運転に支障をきたす場合は、助手席に取り付けしないでください。
2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にチャイルドシートを取り付けしないでください。

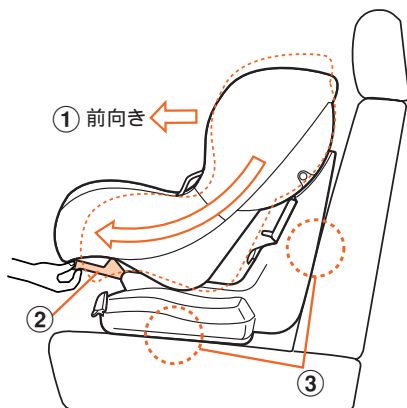
座席への取り付けかた

次ページに続く

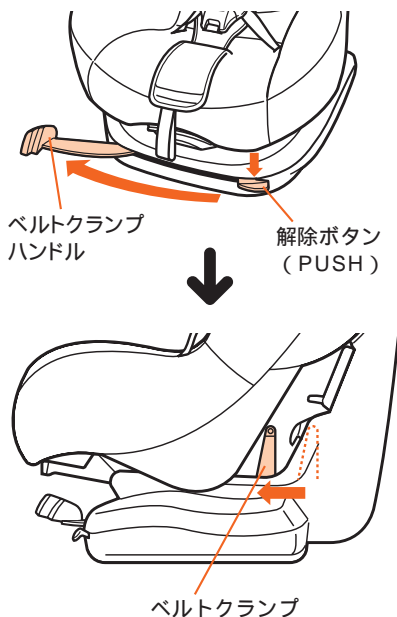
準備

- ①このチャイルドシートは、**前向き**に取り付けます。
- ②チャイルドシートのリクライニングを、**最も倒した状態**にします。(「リクライニングの使いかた」11ページをご覧ください)
- ③チャイルドシートの**底面と背面**を、車の座席に**しっかりつけて、置いてください**。

座席がスライドできる場合は、後方にスライドしてください。



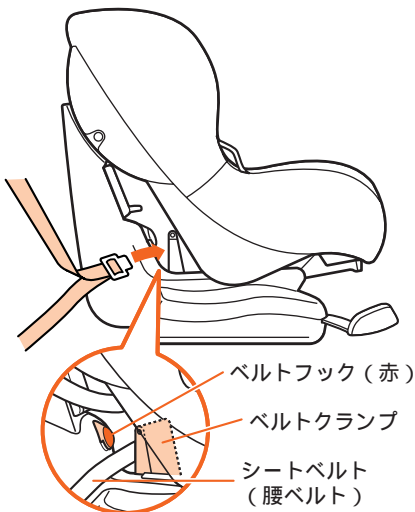
- 1** ベルトクランプハンドルを左側にスライドさせ、ベルトクランプを開きます。
ハンドルをスライドするには、ハンドル下部の解除ボタン(PUSH)を押し下げます。



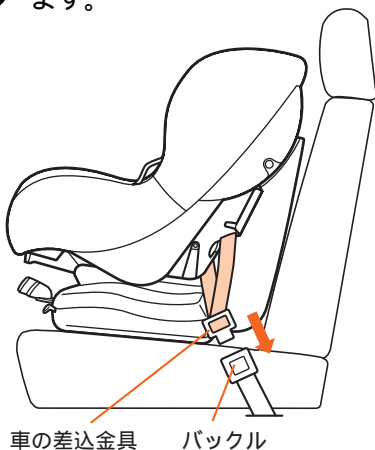
車の座席への取り付けかた

座席への取り付けかた

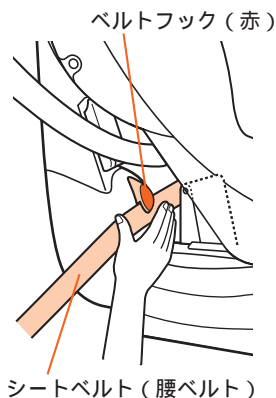
- 2** 車のシートベルトを本体とベースの間に通し、反対側から引き出します。このときシートベルト(腰ベルト)は、赤いベルトフックとベルトクランプとの間を必ず通してください。



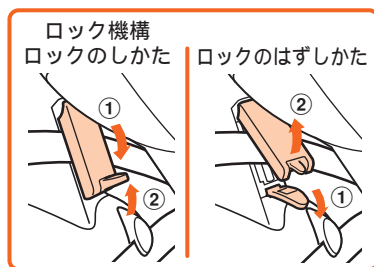
- 3** 差込金具をバックルに差し込みます。



- 4** シートベルト(腰ベルト)を、ベルトフック(赤)の下に通します。



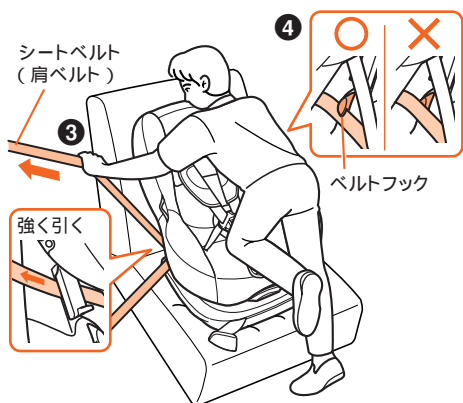
- 5** シートベルト(肩ベルト)を、バックルと反対側のロック機構にはさみます。



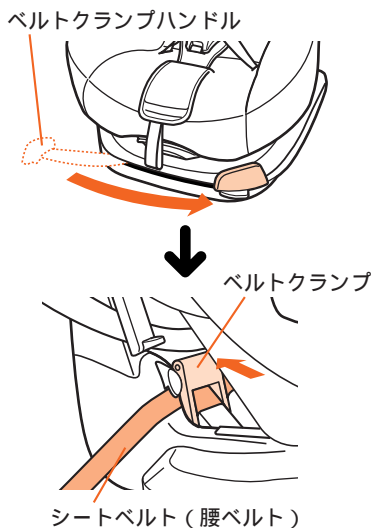
- 6** ①座面にひざを乗せて体重をかけ、車の座席にチャイルドシートを沈み込ませます。
- ②そのままの状態シートベルト(肩ベルト)を矢印の方向に引きます。



- ③ 体重をかけたまま、シートベルト(肩ベルト)を矢印の方向に引きます。この際に、④ベルトフックからシートベルトがはずれないように注意してください。



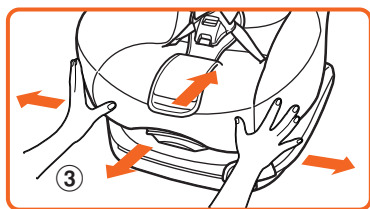
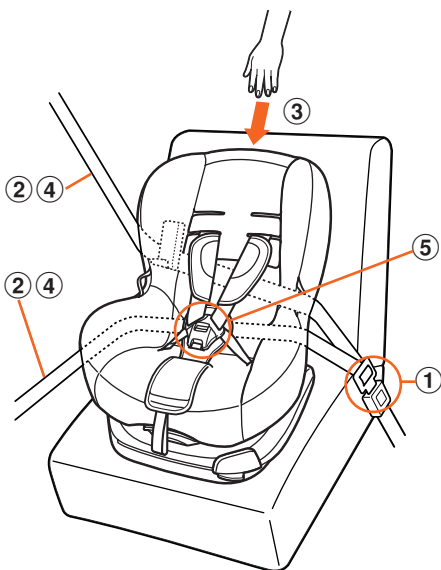
- 7** ベルトクランプハンドルを右側に、「カチッ」と音のするところまでスライドさせます。ベルトクランプが押し込まれ、シートベルト(腰ベルト)をはさみロックします。



- 8** 最後に「取り付け時の完了チェック」(21ページ)をお読みになり、しっかり固定しているかを確認してください。

取り付け時の完了チェック

取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか、次のことを確認してください。



- ①車のシートベルトの差込金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。
- ②車のシートベルトに、ゆるみ、たるみ、ねじれがないこと。
- ③車の背もたれとチャイルドシートの本体との間に、手のひらが入るようなすきまがないこと。
またベースを前後左右にゆずって、約3cm以上動かないことを確認してください。
- ④お子さまが座っていても、車のシートベルトにゆるみのないこと。
お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。
- ⑤差込タンクがしっかりバックルに差し込まれていること。

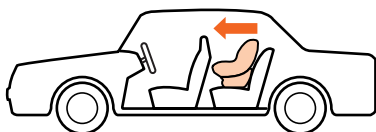
警告

これらの項目をチェックし、しっかり固定できない場合は再調節してください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

こんなときには

より確実に固定する方法

取り付け手順終了後、座席を前にスライドさせてください。より確実に固定できます。

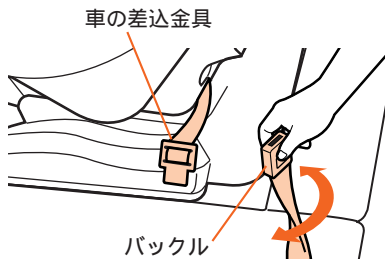


エアバッグが装着された座席では使用しないでください。エアバッグの作動による衝撃で、危険な状況になります。(装備されているのがサイドエアバッグのみの場合には使用できます)

バックル側ベルトが長いとき

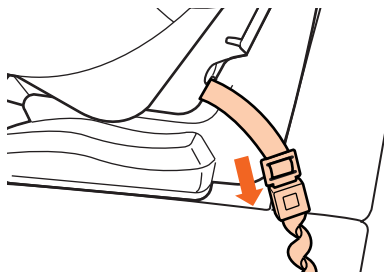
バックル付け根のベルトが長く、しっかり固定できない場合は次の手順を行ってください。

- 1 差込金具をはずしてバックルを持ち、短ベルトに1～3回ひねりを加えて短くします。



ひねりを加えてもしっかり取り付けられない場合は、使用しないでください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

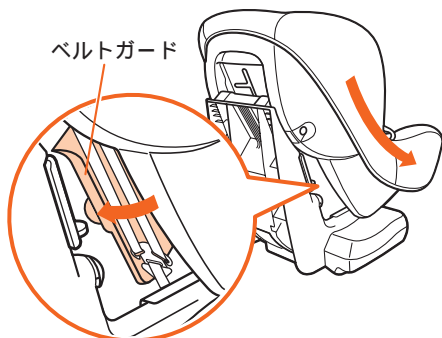
- 2 もう1度、差込金具をバックルに差し込み、固定します。



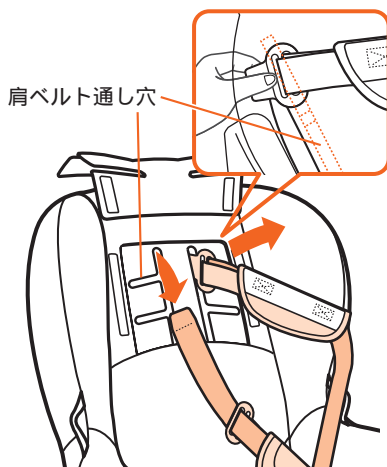
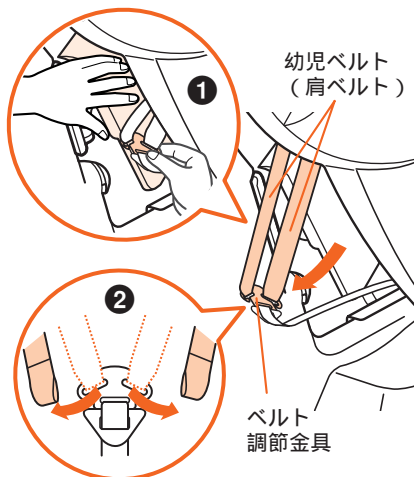
お手入れのしかた

シートカバーのはずしかた(車からおろしてははずしてください)

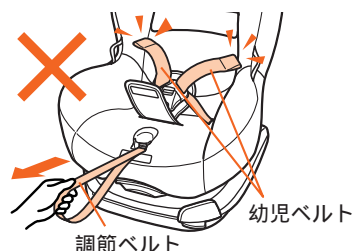
- 1 幼児ベルトを引いて、ゆるめます。
(12ページ「お子さまの座らせかた」参照)
- 2 リクライニングを最も倒して状態にして、ベルトガードを開けます。
- 4 幼児ベルトと肩ベルトカバー先端のストラップとを、一緒に肩ベルト通し穴の縦穴から引き抜きます。
このときストラップをシートの背面から持って縦向きにし、肩ベルト通し穴の縦穴の一番上から出すと簡単に引き抜くことができます。



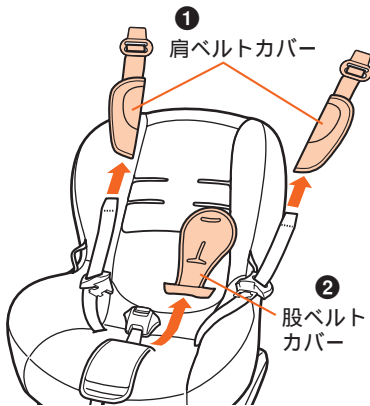
- 3 ① 片方の手でベルトガードをおさえ、中から幼児ベルトに付いているベルト調節金具を引き出します。
- ② ベルト調節金具から、幼児ベルトをはずします。



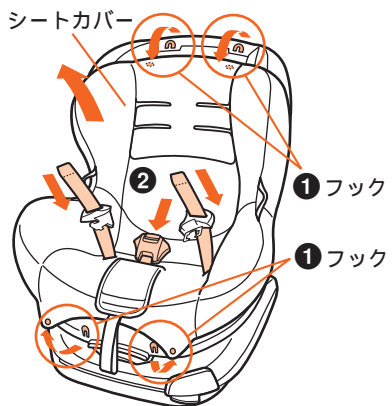
ワンポイント ベルト調節金具がベース内部に引き込まれないよう、幼児ベルトをはずした状態で、調節ベルトを引っばらないでください。



- 5 ① 幼児ベルトから肩ベルトカバーをはずします。
 ② バックルから、股ベルトカバーを引き抜きます。

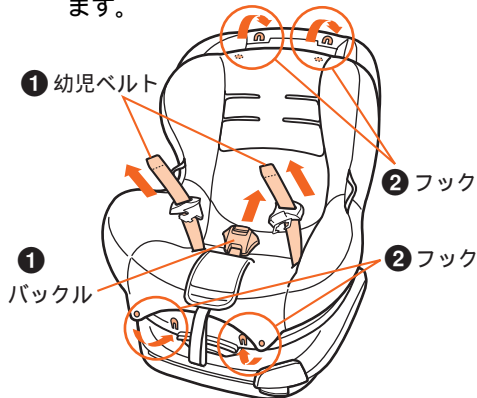


- 6 ① シートカバーのフック(4ヵ所)をはずします。
 ② 幼児ベルト、股ベルトを引き抜いてシートカバーをはずします。

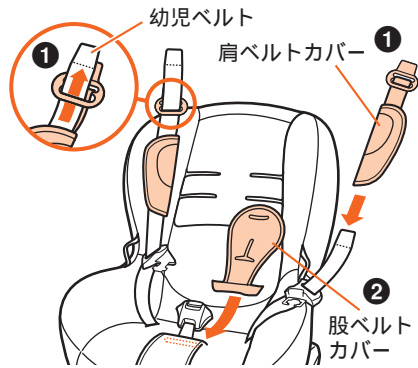


シートカバーの取り付けかた

- 1 ① シートカバーを本体にかぶせ、股ベルト(バックル)、幼児ベルトを表側に引き出します。
 ② シートカバーのフック(4ヵ所)をとめます。



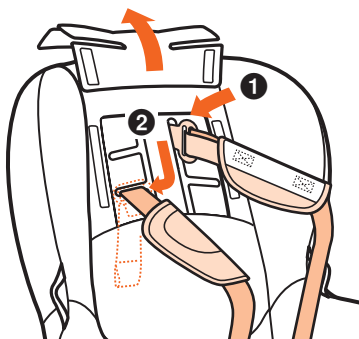
- 2 ① 肩ベルトカバーを幼児ベルトに取り付けます。このとき幼児ベルトは、肩ベルトカバーのストラップの大きな穴の方に必ず通してください。
 ② 股ベルトカバーを取り付けます。



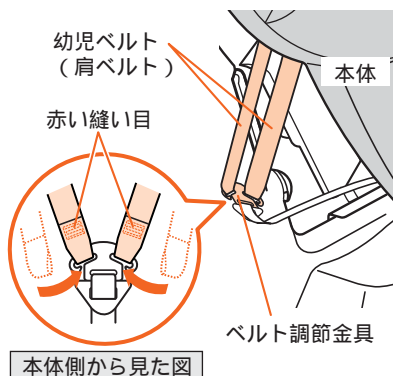
お手入れのしかた

お手入れのしかた

- 3** カバーを持ち上げ、幼児ベルトと肩ベルトカバーのストラップを一緒に、肩ベルト通し穴の縦穴から差し込みます。幼児ベルトを希望の通し穴に入れます。



- 5** 幼児ベルトの先端をベルト調節金具に取り付けます。このとき赤い縫い目のあるベルト面を本体側になるようにします。ベルトガードを閉じます。



- 4** リクライニングを最も倒して、ベルトガードを開きます。

- 6** カバーを肩ベルト通し穴にかぶせ、面ファスナーで固定します。差込タングをバックルに差し込みます。

シートカバー、肩ベルトカバー、股ベルトカバーの洗いかた

洗濯時は、次のことを守ってください。

	液温は30 を限界とし手洗いしてください。		塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。		ドライクリーニングはしないでください。
	手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。強く絞ると、シワが残ることがあります。		日陰で平干してください。

蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。

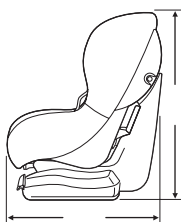
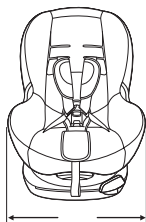


●取扱説明書

取扱説明書(本書)は、よくお読みのうえ、本体後ろ側の収納部に保管してください。

製品仕様

商品サイズ :



単位:mm

商品重量 :9.3kg

材質 :本体… ポリプロピレン

シートカバー

表生地… ポリエステル、
綿混紡

クッション材… ウレタン
フォーム